

多核種除去設備処理水の J6 移送ラインからの漏えいについて

平成26年12月18日
東京電力株式会社



1 . 概要

- J6-A1タンクが竣工したことから、既設多核種除去設備から当該タンクへ移送を実施することになっていた。
- その際、系統構成を誤り（施工中の配管につながる弁を開けていた）、施工中の配管端部（開口していた）から、移送していた多核種除去設備処理水が漏えいした。
- 汚染水が管理区域内に漏えいしたことから、法令報告対象と判断した。

時系列

< 12月17日 >

- 午後2時56分 既設多核種除去設備からJ6-A1へ移送を開始（初移送）
- 午後3時頃 F765弁の先の施工中の配管から多核種除去設備処理水が漏えいしていることを当社社員が発見（インサービス時のリークチェック中）
- 午後3時03分 F765弁を閉止した後、既設多核種除去設備からの移送を停止
- 午後4時40分～ 周辺土壌を回収（回収範囲：約20m×約0.5m）
（日没により、回収作業を一時中断）
- 午後6時53分
～7時35分 配管トレンチの水を仮設ポンプにて回収（約9m³）

< 12月18日 >

- 午後1時30分 周辺土壌を回収
（回収範囲（前日分含む）：約2.4m×約15m、総回収量：約5.7m³）

2 . 状況および原因と対策

漏えい状況

- 漏えい量 : 約6 m³
- 漏えい水 : 既設多核種除去設備での処理水
- 漏えい範囲 : 水漏れ箇所周辺 : 約25 m × 約2 m
水漏れ箇所南側配管トレンチ内 : 約16 m
- 漏えいエリアの雰囲気線量 : 2 ~ 8 μSv/h
- 漏えい水の分析結果 (平成26年12月17日 採取・分析中)

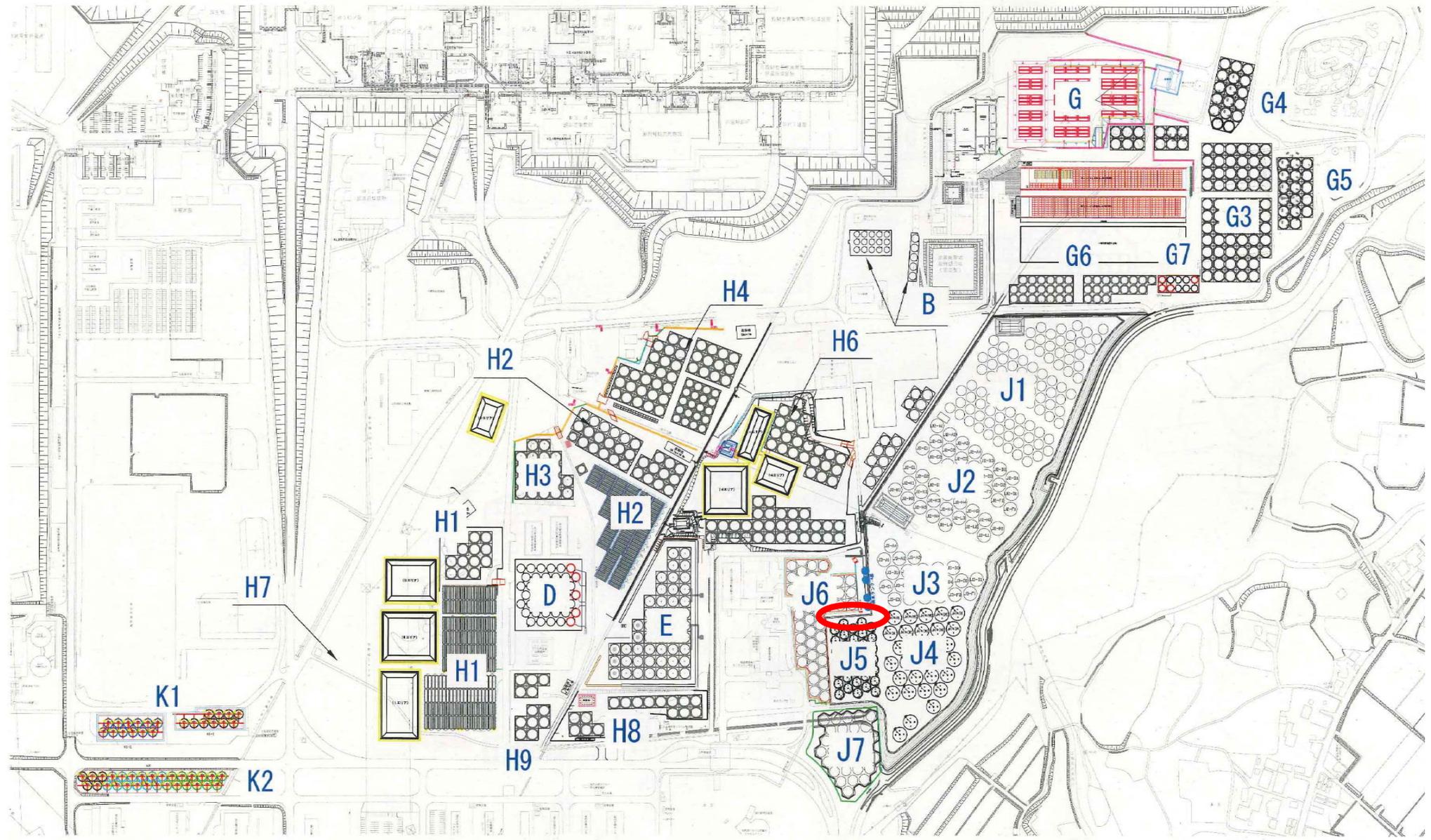
原因

- J6タンクエリアに移送するための手順書を作成するにあたり、施工図面を確認した際に配管の接続状況について誤認してしまい、結果として間違った手順書が作成された。
- この手順書を元に弁の開閉操作を実施した結果、施工中の配管へ当該処理水が流入し、漏えいに至った。また、現場において、実際の配管のライン確認は実施していなかった。

対策

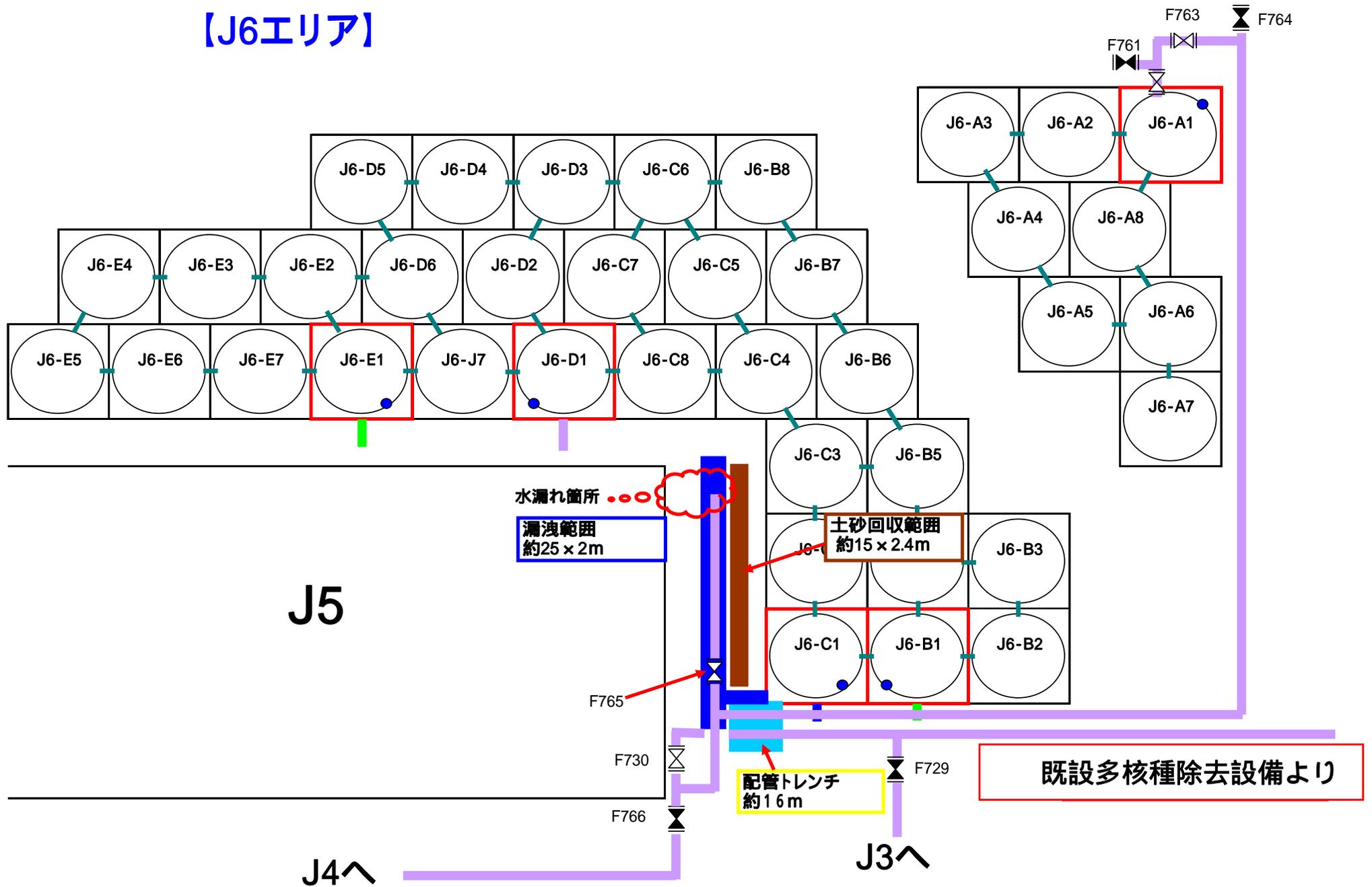
- 今後は、新設ラインの弁操作を実施するにあたっては、移送前にライン構成の確認を確実に実施する。
- 手順書作成の際に移送ラインを誤認した原因については、調査を継続し、必要に応じて対策を検討する。

(参考) 発生位置

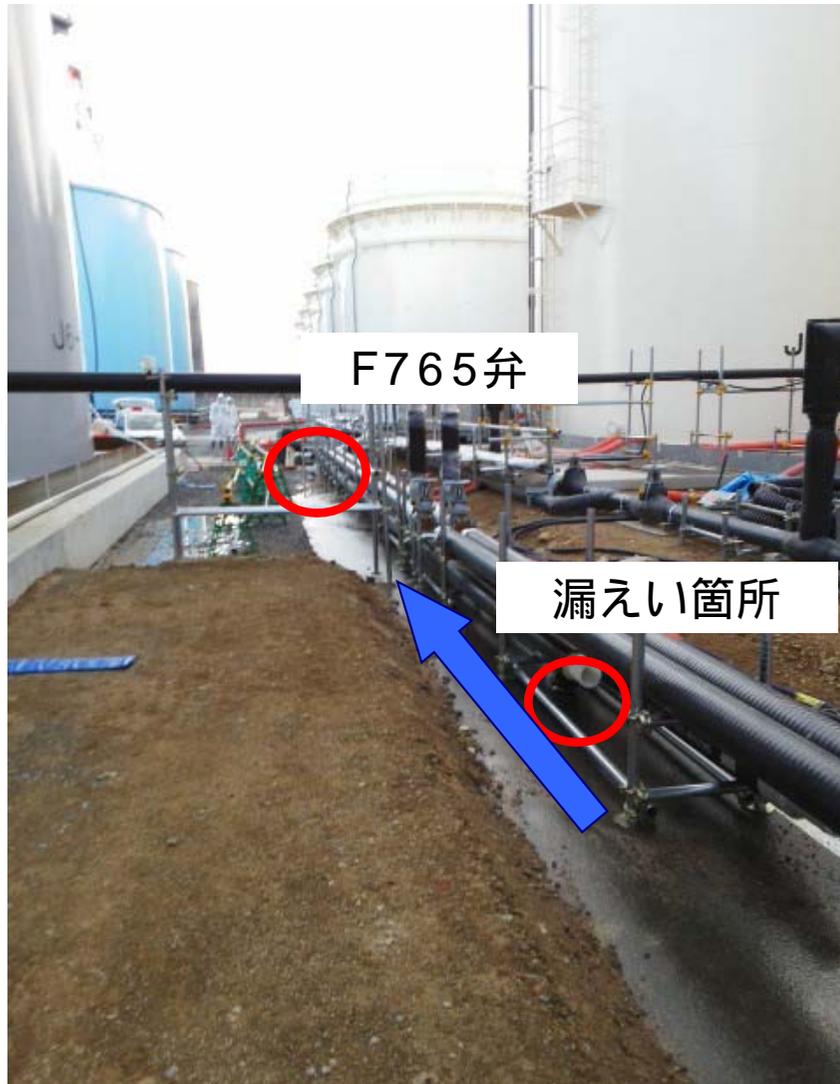


(参考) 発生位置

【J6エリア】



(参考) 現場状況写真



画像提供：東京電力株式会社
撮影日：平成26年12月17日



画像提供：東京電力株式会社
撮影日：平成26年12月17日

← 漏えい水の流れ